

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771100611		
法人名	社会福祉法人サマリア		
事業所名	サマリア大川グループホーム		
所在地	香川県さぬき市大川町田面1198		
自己評価作成日	平成27年9月16日	評価結果市町受理日	平成26年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiryousoCd=3771100611-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成27年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれて閑静な場所にあるが、近くに幹線道路があり交通の便はよい。天気の良い時には、散歩や前庭の畑の手入れや収穫を楽しまれています。その方のペースに合わせられるよう個別処遇をメインに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

日本家屋の民家を利用した事業所であり、家庭的な雰囲気を感じられる。民家の利点を活かすとともに、安全面やプライバシーの保護の観点から、必要に応じて職員間で話し合い、改修や改善を行い、利用者が快適に暮らせるように努めている。また、隣接する同法人のデイサービスへのボランティアによるイベント事業にも参加し、デイサービス利用者や地域の方との交流を行っている。職員は、利用者が笑顔で楽しく日々を過ごせるように、言葉かけや態度に気をつけ、優しい気持ちでおもてなしを行い、信頼関係を築くよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「愛・忍耐・技術」に基づき、職員の意見を募集し、地域密着型サービスの役割を踏まえ、事業所独自の理念として「ようこそ私たちは温かいまなざし、優しい言葉、柔らかな行いでおもてなし」を策定し、玄関とホールにそれを掲げ、職員は日々それを念頭において業務を行っている。	法人の理念を基に、理事長と職員が検討し、事業所独自の理念をつくり、玄関やホールに掲示して、周知している。職員は、利用者が楽しく日々を過ごせるよう、優しく接している様子がうかがえる。	理念は、事業所のサービス提供の基本的な考え方を示すものである。日々の実践が、理念を具体化した支援になっているかを職員が振り返る機会を作るなど、職員が理念を実践につなげる取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃作業や春の花見、年数回のふれあいサロン食事会、秋祭りなどに参加している。また、グループホームの行事(春の花見、秋の祭り)を地域の方々を案内している。地域の自主防災組織に参加し、当施設は水害時の一時避難場所となっている。	自治会に加入しており、地域の自主防災組織の活動や清掃、秋祭り、集会所での食事会等の地域行事に参加している。事業所主催の花見などの行事を、地域の方に案内し、散歩時には挨拶し、交流している。事業所は、水害時の避難所に指定されており、地域の防災活動に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	内外部の研修にできる限り参加し、運営推進会議等の場で発表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご利用者に対するサービスや日常生活を報告し、意見をいただきサービスの向上に努めている。	家族や地域の各種団体の方、行政の担当職員の参加のもと、事業所の状況や地域交流事業の報告し、行政からの連絡事項等について話し合い、参加者からの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議で、事業所から災害などの具体的な問題や課題等を提案し、検討されたい。具体的な事業所の課題を提案することで、参加者から具体的な意見や情報提供が期待できるので、地域との関係体制づくりなどを協議し、サービスの向上に活かすことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課に出向いたり、運営推進会議の場で情報をいただき、施設の近況をお伝えし、協力関係を築くよう努めている。	市役所の介護保険課や地域包括支援センター、支所等の関係職員に報告や相談し、助言を得るなど連携を図るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を実施し、拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を実施し、職員は身体拘束をしないケアに努めている。玄関は事故防止のため施錠を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を作り、全職員が理解し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を作り、必要なときは関係者と話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や制度改定時に説明し、理解を得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族の参加を頂いており、苦情箱を設置し、意見を求めている。要望等は職員間で話し合い、改善に取り組んでいる。	意見箱を設置している。面会時や運営推進会議の際に、家族の意見や要望を聞き取り、把握した意見や要望は職員間で話し合い、運営に反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見が出やすい雰囲気を作り、意見のある場合は会議の場できりあげ、話し合っている。	日常業務や月1回の理事長を交えた会議で、職員の意見や要望を把握し、運営に反映している。職員の意見が運営に反映された例として、夕食時間の変更やシャワー用いすの種類を増やす、介護記録様式の見直しなどがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員からの意見を聞く場を設け、環境や条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、希望に応じて内外研修に参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型のケアマネジャー会議にも参加し、各事業所のイベントにも参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の心身状態を把握し、希望や要望に応え、安心できる場になるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の話し合いで、ご本人やご家族の困りごと、不安なことを伺い、当施設でできること、できないことの説明をした上で、サービスを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の話を傾聴し、必要な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることをできるだけしていただき、支えあって暮らしていけるような雰囲気づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつまでもご家族の一員として考え、ご家族に協力していただけるよう、声をかけさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援	地域行事に参加できる機会を作り、なじみの人や場に出かける機会を絶やさないように努めている。	散歩時や地域のお祭り、亀鶴公園の菖蒲祭りなどに出かけた際に、馴染みの人に出会い機会がある。隣接するデイサービス利用者との交流を支援している。また、墓参り等の外出や面会の機会も大切に、関係性を維持できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はすべてのご利用者がホールに連れられ、個別ケアを基本とし、全体としてはレクリエーション、リハビリ場での関係づくりに努めている。ご利用者が孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず退所されることになっても、相談や支援を継続し、不安なくすごせるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向は、ご家族を交えて話し合い、それに沿った支援をしている。また困難と思える場合には、職員間で話し合い、ご家族とも相談しながら、今までの生活歴や暮らし方を尊重し、希望や意向に添えるよう努めている。	日頃の会話から、利用者の意向や希望を把握している。また、言葉で表現できない利用者については、表情や態度から意向や希望を把握し、家族の意見も参考にしている。把握した意向や要望は、職員間で話し合い、意向に沿った支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族から生活歴に関することは聞き、ご本人が安心して暮らせるように努めている。今までの生活歴や暮らし方が継続できるよう、その方への理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で現状に変化が生じた場合は、それにあった支援ができるよう、職員間で話し合っている。その方の生活のペースに合わせ、心身状態などは朝夕の申し送り職員間で共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の担当者会等の場で、意見を頂いたり、ご家族からも意見を聞き、主治医とも相談し介護計画を作成している。ご本人に変化の見られる場合は、随時介護計画を作成している。	介護計画作成時には、利用者や家族の意向を確認するとともに、各職員や医師等の関係職員の意見を参考にアセスメントし、ケアマネジャーが計画を作成している。家族に介護計画を説明し、承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の様子は、朝・夕の申し送りで職員間に伝達している。その内容は、管理日誌及びご本人の日報に記録し、情報を共有しながら、実践、介護計画の見直しに活かしている。個別記録のあり方を検討し、介護計画に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の同行など、介護保険以外のサービスを提供している。ご本人の心身状態を把握し、希望や要望をにんげん、安心できる場になるよう、関係づくりに努めている。そのときの希望や要望にんげんられるよう柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイサービスの音楽会などに参加し、暮らしの中での楽しみごとが見つけられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ医を確保し、受診できない場合は往診もできている。(内科、歯科)	利用者や家族が希望する医療機関の受診を支援している。診察には、家族か職員が同行し、受診結果は家族と事業所が共有している。希望により、協力医療機関の医師や歯科医師の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調管理などは看護職員が担当し、介護職員が安心して相談できる体制ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が交代で顔を見せるようにし、ご本人が安心してできるようにしている。その都度、病院関係者とも話しあいができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にも安心して過ごしていただけよう、入居時に説明ができています。	重度化や終末期について、入居時に事業所ができる範囲を説明している。利用者の状況により、随時、見直しをしている。身元引受人がおられない方の看取りを行ったことがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や救急救命の講習を広域消防により実施してもらい、実践力を付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、実践力を付けている。訓練には地域住民も参加され、協力体制が築けている。また、当事業所が安全な場所として、一時的な避難場所となっている。	定期的に地域住民の参加のもと、避難訓練を実施している。事業所は、地域の避難場所に指定されている。消防設備の点検を定期的に行っており、食料や水などの備蓄を行っている。	水害や地震は、災害規模により停電や電話の不通など、様々な状況が発生することになるので、風水害や地震についても、避難訓練などの災害対策の検討されることを期待したい。また、地域住民や関係機関との役割を具体化するとともに、連携を密に図り、協力体制が強化されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳が損なわれない対応を、普段より心がけている。トイレや浴室はカーテンで仕切られ、足元まで隠れるようにしている。	利用者の人格を尊重し、優しい表情や言葉で接するよう努めている。トイレにアコーディオンカーテンや足元まで隠れるカーテンを設置する等、プライバシーの保護に配慮したケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が進行し、自己決定が困難になられたご利用者には、言葉かけの工夫をしたり、顔の表情や動作を観察して、自己決定ができるように働きかけている。簡単なことでも希望が表せるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方にあった暮らし方ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧、カット等、ご本人の希望に沿うようにし、個性や好みを尊重している。また、外出時の服装にも気配りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の献立を参考にして彩りや盛り付けを工夫し、食事が楽しめるようにしている。おやつ作りも季節に応じて行っている。盛り付けや下膳など、できることはしてもらっている。	当日の食事担当者が利用者の希望を考慮し、季節の食材を上手に取り入れた食事を提供している。畑で採れた食材を利用したおやつ作りを行っている。職員は、利用者に声かけをしつつ、一緒に食事をし、和やかな雰囲気である。利用者は、下膳やお茶を入れるなど、できることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握し、無理なく飲食できている。食事時の汁物や副菜からの水分、おやつ時の牛乳等から1日の水分量を確保している。特に夏場は脱水にならないように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じて、口腔ケア用品を使用している。自分で歯磨きができないご利用者については、職員の介助で口腔内の清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、トイレ誘導をし、一人ひとりに合わせた排泄になっている。	排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導など利用者の状態に応じた排泄支援を行っている。夜間は、ポータブルトイレを利用して、排泄の自立を促している。おむつを使用していた利用者が、トイレで排泄できるようになり、喜ばれたことがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄記録を確認し、便秘の症状のある場合はかかり付け医と相談して、便秘薬を使用している。予防策として水分量を確認し、職員の手伝いで体を動かしてもらっている。飲食物については、ヨーグルトや食物繊維の豊富なものを取り入れている。		
45	(17)	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	食事の時間帯との兼ね合いなどで、時間帯はほぼ決まっているが、ゆったりと入浴が楽しめる雰囲気は作っている。	原則、週2回午後の時間帯に、個浴での入浴を支援している。入浴を楽しみにしている利用者が多いが、入浴を拒否された場合は、時間を空け声かけをしたり、他の利用者からの「お風呂に入れば、気持ちいいよ」という声かけにより、入浴されることがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠への働きかけとして、日中はホールへ出てきてもらい、山の緑や太陽の光を浴びて、自然の空気を感じてもらっている。生活習慣に合わせて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方を受けるときは、医師に状態報告をしている。医師の指示通りの服薬支援ができています。副作用についても理解している。症状に変化が見られた場合は、医師に連絡し、回復できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好品は、自宅にいたころと同じように対応し、気分転換を図る意味で、定期的に出外支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	盆や正月には、ご家族の協力を得て、帰宅できるように配慮している。また、四季折々の地域の行事には、ご利用者全員が戸外に出かけられるように支援している。(初詣、花見、菖蒲見物、花火大会や祭り、紅葉狩り等)天候によって近所への散歩をしている。買い物等の支援もできる限り行っている。	車いす利用者を含め、利用者全員に、花見や菖蒲祭り、紅葉狩り、お祭り等への外出を支援し、自然にふれ季節を感じる機会を設けている。また、近所への散歩や買い物などの日常的な外出をしている。帰宅などの個別の外出希望には、家族の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人から要望のある場合については、ご家族からの了解を得て小遣いを管理してもらい、外出時におやつ等の買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、ご利用者がいつでも使用できる場所に置いてあり、かけたい時は協力している。手紙や年賀状等、ご家族とのやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然な採光があり、空気の入替えも定期的に行っている。ホール内の窓からは山の緑や庭の草花が眺められ、太陽の光も十分に降り注ぎ、気候のよい時期は外からの風も気持ちよく入り、ご利用者は居心地よく過ごせている。	民家を利用しているため段差があるが、必要な個所はバリアフリー化しており、安全面に考慮しつつ、日本家屋の利点を上手に活用している。敷地内には、花や柿や桃等の果物の木が植えられている。家庭菜園もあり、季節感や家庭的な雰囲気が感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染んだ椅子で、思い思いにすごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小物類、筆筒、仏壇など、一人ひとり馴染んだ物を使っておられる。	日本家屋を利用しており、広さや間取りは部屋ごとに異なっている。利用者が利用しやすいよう、ベッドやタンス、テレビや小物を上手に配置し、個性豊かな部屋となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者は、1年以上ここで生活している方達で、安全に過ごせるように工夫できている。		